

# 〇〇市 〇〇地区 地区防災計画(津波編)



## 目的: 津波から逃げ切るため!

〇〇地区	
世帯数	〇〇世帯
人口	〇〇人

年間	スケジュール
1月	
2月	
3月	津波避難訓練
4月	
5月	
6月	訓練
7月	
8月	
9月	
10月	訓練
11月	
12月	訓練

参加してね!

### <災害履歴(津波編)>

過去の津波被害を知ろう!

- 1923年9月1日(大正12年)関東地震津波  
下田・柿崎で2.5~4.5mの高さの津波があった。また湾外の須崎・外浦などでやや高く、4~6mに達した所もある。被害は全壊2戸、半壊50戸、床上浸水190戸。
- 1854年12月23日(安政元年)安政東海地震津波
- 1707年10月28日(宝永4年)宝永地震津波  
津波の高さは、外浦3.5~4.5m、柿崎6.5m、下田3.5~6.8m、吉佐美2.4mに達した。柿崎では全壊・流失75戸、死傷なし。また、下田(本郷・岡方を含む)984戸のうち937戸が流失した。水死122人であった。古記録によると、津波は地震後約15分で襲来している。津波の高さは5~6mで、宝福寺裏竹林まで達した。全壊857戸、半壊55戸、溺死11人、船破損93隻。
- 1703年12月31日(元禄16年)元禄地震津波  
津波の高さは3~4mで、宝福寺の大門に達した。家数492戸のところ332戸が流失皆潰、160戸が半潰、男女27人流死(37人または20人との記事もある)、船大小81隻破船、痛みなどの被害があった。下田武ヶ浜川除浪除(長200間、平均高7尺、馬踏5尺、敷2間)も津波で崩れた。

### 緊急連絡 先

会長 〇〇	
副会長	
〇〇医院	####-##-####
〇〇メディカルセンター	####-##-####
〇〇医院	####-##-####

# （稲生沢地区）

### 津波ハザードマップの活用方法

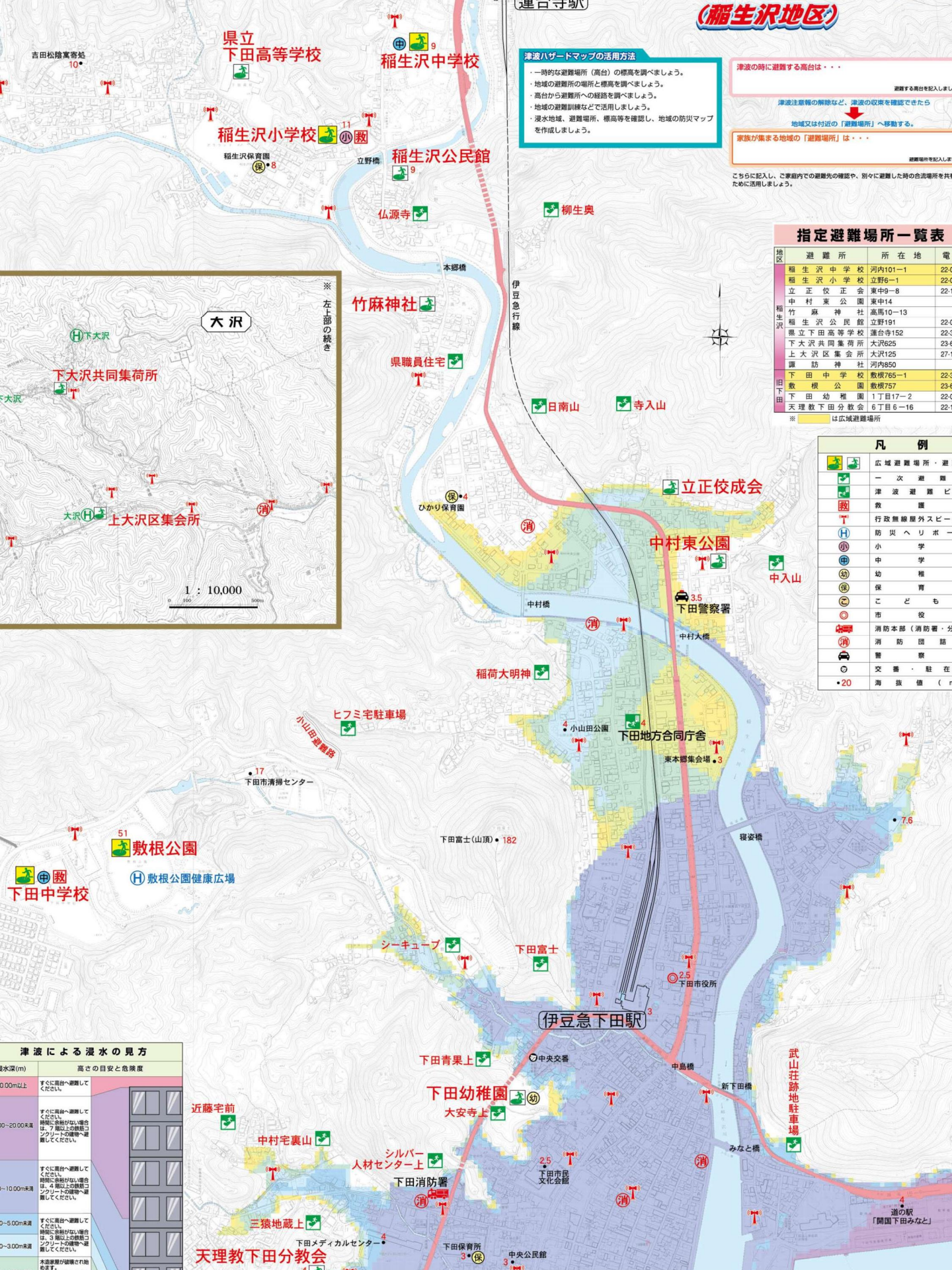
・一時的な避難場所（高台）の標高を調べましょう。  
 ・地域の避難場所の場所と標高を調べましょう。  
 ・高台から避難所への経路を調べましょう。  
 ・地域の避難訓練などで活用しましょう。  
 ・浸水地域、避難場所、標高等を確認し、地域の防災マップを作成しましょう。

津波の時に避難する高台は・・・

津波注意報の解除など、津波の収束を確認できたら  
 ↓  
 地域又は付近の「避難場所」へ移動する。

家族が集まる地域の「避難場所」は・・・

こちらに記入し、ご家庭内で避難の確認のうえ、別々に避難した時の合流場所を共有するために活用しましょう。



### 指定避難場所一覧表

地区	避難所	所在地	電
稲生沢	稲生沢中学校	河内101-1	22
	稲生沢小学校	立野6-1	22
	立正佼正会	東中9-8	22
	中村東公園	東中14	22
	竹麻神社	高馬10-13	22
	稲生沢公民館	立野191	22
	県立下田高等学校	連合寺152	23
	下大沢共同集荷所	大沢625	23
	上大沢区集会所	大沢125	27
	諏訪神社	河内850	27
下田	下田中学校	敷根765-1	23
	敷根公園	敷根757	23
	下田幼稚園	1丁目17-2	22
天理教下田分教会	6丁目6-16	22	

※ は広域避難場所

### 凡例

	広域避難場所・避
	一次避難
	津波避難ピ
	教
	行政無線屋外スピー
	防災ヘリポート
	小
	中
	幼
	保
	こども
	市役
	消防本部（消防署・分
	消防団結
	警察
	交番・駐在
	20
	海拔値（m）



### 津波による浸水の見方

浸水深(m)	高さの目安と危険度
0.00m以上	すぐに高台へ避難してください。
0.00-20.00m未満	すぐに高台へ避難してください。津波にさらわれる場合は、7層以上の鉄骨コンクリートの建物の高層へ避難してください。
20.00-50.00m未満	すぐに高台へ避難してください。津波にさらわれない場合は、5層以上の鉄骨コンクリートの建物の高層へ避難してください。
50.00-100.00m未満	すぐに高台へ避難してください。津波にさらわれない場合は、3層以上の鉄骨コンクリートの建物の高層へ避難してください。
100.00-300.00m未満	すぐに高台へ避難してください。津波にさらわれない場合は、1層以上の鉄骨コンクリートの建物の高層へ避難してください。
300.00m以上	本道が崩壊され始める可能性があります。

# 令和 年度 自主防災組織図

年 月 日

		<b>総務班 班長</b>		<b>総務班 班員</b>	
		自治会名 氏名 TEL			
		<b>避難者管理班 班長</b>		<b>避難者管理班 班員</b>	
		自治会名 氏名 TEL			
		<b>情報班 班長</b>		<b>情報班 班員</b>	
		自治会名 氏名 TEL			
		<b>食料・物資班 班長</b>		<b>食料・物資班 班員</b>	
		自治会名 氏名 TEL			
		<b>施設管理班 班長</b>		<b>施設管理班 班員</b>	
		自治会名 氏名 TEL			
		<b>保健・衛生班 班長</b>		<b>保健・衛生班 班員</b>	
		自治会名 氏名 TEL			
		<b>要配慮者支援班 班長</b>		<b>要配慮者支援班 班員</b>	
		自治会名 氏名 TEL			
		<b>女性班 班長</b>		<b>女性班 班員</b>	
		自治会名 氏名 TEL			
		<b>ボランティア班 班長</b>		<b>ボランティア班 班員</b>	
		自治会名 氏名 TEL			
<b>本部長</b>		<b>副本部長</b>			
自治会名 氏名 TEL		自治会名 氏名 TEL			
<b>市現地配備員</b>		<b>副本部長</b>			
<班長>		自治会名 氏名 TEL			
<b>小学校</b>					
TEL					
校長					
教頭					
教務主任					
防災担当					

## 防災倉庫資機材・備蓄一覧表

番号	防災倉庫の所在地	鍵の管理者	住所	電話
----	----------	-------	----	----

1	〇〇公会堂			
2				

種別	品目	防災倉庫番号		合計	種別	品目	防災倉庫番号		合計
		1	2				1	2	
救急救助	エンジンカッター				汎用	小型発電機			
	チェーンソー					燃料(リットル)			
	ジャッキ					乾電池(単一)			
	スコップ					乾電池(単二)			
	つるはし					乾電池(単三)			
	リヤカー					強カライト			
	一輪車					土のう袋			
	ゴムボート					食料			
	救急救命	担架					水		
救急セット					受水槽				
三角巾					ろ水器				
初期消火	消火器				釜				
	バケツ				鍋				
	可搬ポンプ				テント・天幕				
情報	電池メガホン				ビニールシート				
	無線機				仮設トイレ				
	腕章				排便収納袋				
					毛布				

# 地震(災害)発生

## 身の安全の確保

3つの安全確保行動1-2-3



まず低く 頭を守り 動かない

(出典：日本シェイクアウト提唱会議)

## 身の回りの状況確認 (揺れがおさまる)

○火元の確認 ○家族の安全確認 ○靴を履く ○出口の確保

ガスの元栓閉める  
電気のブレーカーを落とす

## 情報収集・隣近所の状況確認

○ラジオをつける！ ○同報無線を聞く ○隣近所の被害状況確認

## 各組指定の一時避難地に避難 →地域で協力した自主防災活動

○初期消火 ○町民の安否確認 ○救出・救助  
○救護活動 ○高齢者等の避難支援 ○避難所開設  
○○公会堂に災害対策本部設置→防災玉手箱活用して運用

自宅が焼失・全半壊

自宅が無事・余震でも大丈夫か確認

○○中学校(指定避難所)の  
グラウンドに集合

体育館で避難生活  
※状況により○○公民館も活用

自宅で避難生活  
○プライバシーが確保できる  
○食料や布団などの生活物資  
が備わっている

## 自主防災会の体制

洪水レベル3発表時・・・各自が気象状況や被害状況を収集、自主防災隊会+自主防災委員のLINEグループにおいて共有→判断に応じて公民館(コミュニティセンター)に参集・対応開始する。

洪水レベル4発表時・・・身の安全を優先した対応に切り替え、町内の情報収集にあたり、前記LINEグループ内で共有する。

洪水レベル5発表時・・・すでに災害が発生しているものとし、安全を確保した上でSNSや電話等で町内の情報収集にあたり、警報終了後の対応を前記LINEグループ内で相談する。

地震(震度5強以上)・・・各自が地震と家族の安全が確認できたら公民館(コミュニティセンター)に参集。救出救護・火災等の被害確認支援にあたり指揮を執る

津波(津波警報・大津波警報)・・・各自津波避難場所(避難地)、高台、津波避難施設へ避難。事前に決めた防災委員、又は、協力住民により避難行動要支援者を避難させる。安全が確認できたら公民館(コミュニティセンター)に参集。救出救護・消火等の被害確認支援にあたり指揮を執る

## 個人の取組

・わたしの避難計画の作成



↑QRコード

**//全ての家庭で実践//**

・家具の固定

・備蓄(水・食料)

